



# 下関市総合計画

SHIMONOSEKI CITY MASTER PLAN

## [第4章] 観光や交流から生まれる 多彩で魅力あるまち 〈観光振興〉

- 第1節 ■ 観光・レクリエーションの振興
- 第2節 ■ 連携・交流の促進(市内、隣接地域、その他国内)
- 第3節 ■ 国際交流の促進



# 観光・レクリエーションの振興

## 現状と課題

定住人口<sup>1</sup>の増加を目指す中、観光振興による交流人口<sup>2</sup>の増大は、地域経済の活性化に大きく寄与するものと期待されています。

本市は、関門海峡をはじめとする海、山、温泉などの自然や、フクに代表される食、豊富な歴史・文化等、多種多様な観光資源を有しています。これら豊富な資源に加え、コンベンション<sup>3</sup>の開催やNHK大河ドラマ放映、映画等のロケ<sup>4</sup>地となった効果や、さらに平成22年には「海響館」に「ペンギン村」がオープンしたことなどによって、本市の観光客数は増加傾向となっています。

癒しやすローライフ<sup>5</sup>が注目される中、本市においても農山漁村で、自然や文化、人々との交流を楽しむグリーンツーリズム<sup>6</sup>やブルーツーリズム<sup>7</sup>といった体験型の新しい観光スタイルが現れています。また、九州新幹線の全線開業によって交通体系が大きく変貌することから、京阪神地区や南九州方面からの観光客誘致も新たな課題となっています。

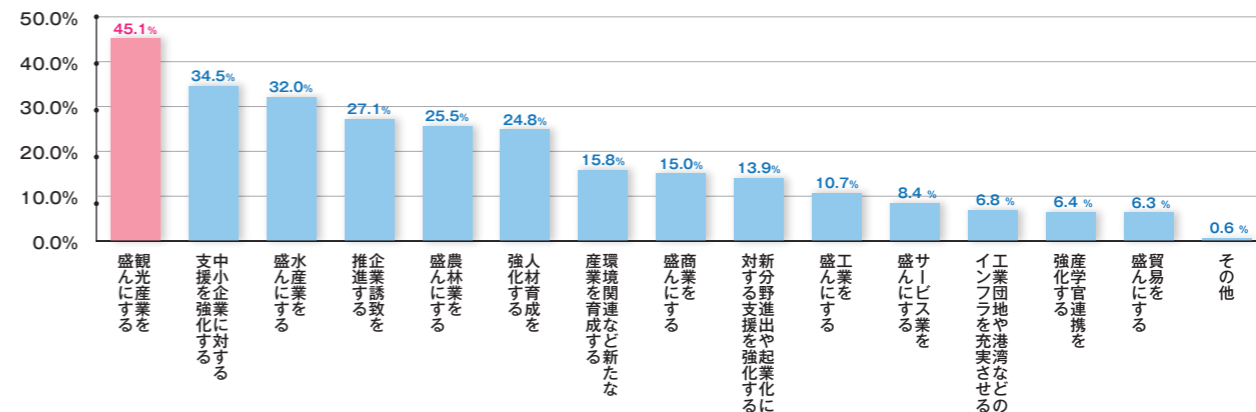
こうした中、本市では、リピーター<sup>8</sup>を含め、国内外からの観光客や宿泊客をさらに増加させるため、美しい自然景観の活用、観光資源のリニューアル等による魅力の向上や、観光資源のネットワーク化、観光情報の発信、ホスピタリティ<sup>9</sup>の向上等、官民が一体となって観光振興に取り組むことが求められています。

また、本市のレジャー施設の一つであるボートレース下関についても、市民・周辺地域の方々から観光客までみんなが楽しめるよう施設の充実を図っていく必要があります。

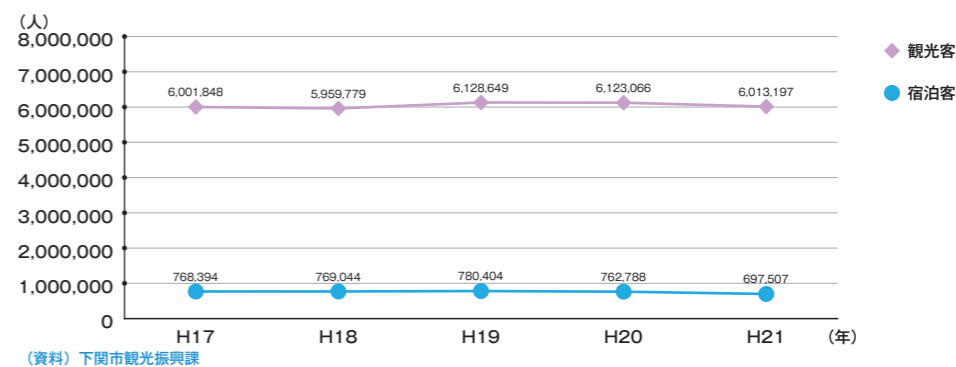
1 ある地域を住所地とする人口。  
 2 住所地の人口（定住人口）とは異なり、通勤・通学、スポーツ、買い物、観光などさまざまな人々の交流によりその地を訪れた人口をいう。  
 3 人や物、情報の交流等を目的に非日常的に開催される会議、大会、展示会、イベント等のこと。  
 4 ロケーションの略。映画やテレビドラマなどの際に、撮影所や放送局の中ではなく、街頭や自然の景観等をバックにしながら撮影を行うこと。  
 5 ゆっくり豊かに暮らすという生活様式。  
 6 緑豊かな農村地域において、その自然・文化・人々との交流を楽しむ余暇活動の総称。  
 7 島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実した海辺での生活体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動の総称。  
 8 観光などにおいて、ある特定の場所を繰り返し訪問する観光客のこと。  
 9 もてなし。もてなす心。

## 市民アンケート調査結果

● 下関市の産業を活性化するには、今後どのような取り組みが重要か 有効回答者数862人（複数回答）



## 観光入込み客数及び宿泊客数の推移



## 観光・レクリエーション資源



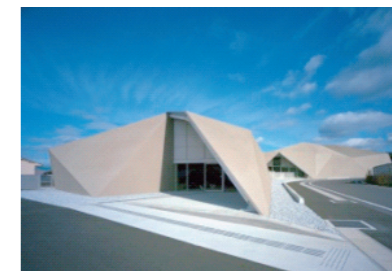
関門海峡



ペンギン村



豊北地区集客施設



川棚温泉交流センター

## 基本方向

- 既存観光施設の再整備や豊北地区集客施設<sup>10</sup>の整備・活用を推進し、観光拠点の形成とこれらのネットワーク化による観光ルートの形成を図ります。
- まちづくりや地場の農林水産業等と連携した観光拠点やルートの整備を行います。
- 観光ボランティアの拡充等ホスピタリティの醸成を図ります。
- 市財政への貢献を図るため、ボートレース事業の効率的な運営を推進します。

## 施策体系図

観光・レクリエーションの振興

観光資源・基盤の整備

## 各事業の方向

### 1 観光資源・基盤の整備

#### (1) 観光資源、拠点等の整備

本市の自然環境を活かした豊北地区集客施設の整備、活用により、観光・レクリエーション拠点の形成を推進します。

また、主要な観光資源である火の山公園等の既存施設については、リフレッシュ<sup>11</sup>を推進し、老朽化等によって低下した機能を向上させ、観光資源としての魅力を高め、有効活用を図ります。

#### (2) 観光ルートの形成等

来訪する観光客及び宿泊客を一層増加させるため、道の駅、温泉、宿泊施設と多様な観光資源を効果的に結びつける滞在型の観光ルートの形成を図るとともに、観光協会等と連携した宣伝活動の強化、観光キャンペーン<sup>12</sup>等に取り組み、官民が一体となった全国に向けての観光客誘致宣伝活動を展開します。

また、都市部と農山漁村との交流等、グリーン・ブルーツーリズムを推進し、新しいスタイルの観光振興を図ります。

#### (3) 多彩で魅力ある観光地づくり

各種観光イベントの開催やコンベンション機能<sup>13</sup>の充実、フィルム・コミッション<sup>14</sup>による映画等のロケ誘致等、多彩で魅力ある観光地づくりを推進します。

<sup>10</sup> 多くの人を広い地域から集める施設。

<sup>11</sup> 建物の外観、色彩などを新しくする。

<sup>12</sup> ある特定の目的を達成するために、組織的に行われる宣伝活動。

<sup>13</sup> コンベンションとは、人や物、情報の交流等を目的に非日常的に開催される会議、大会、展示会、イベント等のこと。コンベンション機能とは、会議の会場となる会議場、展示場、ホールや参加者の宿泊施設、来訪者への案内施設等を指す。

<sup>14</sup> 映画やドラマ等の撮影の誘致や、撮影時の支援を行う公的機関。

また、ホスピタリティの醸成に向け、観光客を市民レベルで温かく迎える環境づくりとして、観光ボランティアの拡充を促進するなど、国内外からの来訪者を受け入れる体制強化を図ります。

#### (4) ボートレース事業の活性化

ミニボートピア<sup>15</sup>などの場外発売場<sup>16</sup>の設置を推進します。また、経営の効率化を図るため、地方公営企業<sup>17</sup>化の検討をします。

## 主要な事業

事業	事業概要	事業主体
観光資源・基盤の整備	<b>観光資源、拠点等の整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 豊北地区集客施設の整備、活用</li> <li>● 既存施設の機能向上</li> </ul> <b>観光ルートの形成等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光協会等と連携した宣伝活動の強化</li> <li>● 観光キャンペーンの実施</li> <li>● 滞在型観光ルートの形成</li> <li>● グリーン・ブルーツーリズムの推進</li> </ul> <b>多彩で魅力ある観光地づくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種観光イベントの推進</li> <li>● 国際観光の振興</li> <li>● コンベンション機能の充実</li> <li>● 映画等のロケ誘致</li> <li>● 観光客受入体制の強化</li> <li>● 観光ボランティアの拡充等ホスピタリティの醸成</li> </ul> <b>ボートレース事業の活性化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミニボートピアなどの場外発売場の設置</li> <li>● 地方公営企業化の検討</li> </ul>	市 市  民間・市 民間・市 民間・市 民間・市  民間・市 民間・市 民間・市 民間・市 民間・市  民間・市 市



角島



豊田農業公園みのりの丘



歌野清流庵

<sup>15</sup> 場外発売場（競艇場以外の場所で舟券の発売等を行う施設）のうち、発売窓口数が概ね15以下のもの。

<sup>16</sup> 競艇場以外の場所で舟券の発売等を行う施設。

<sup>17</sup> 水道事業や工業用水道事業など、地方公共団体が経営する公益的な事業。

# 連携・交流の促進

## 現状と課題

地域の新たな活気を生み出し、本市がさらに魅力あるまちとなるようにするためには、地域の歴史・文化、人々を知り、愛着を持つことが重要です。そのためにも、生活圏域が拡大する中で市内外における交流・連携を強化し、情報発信することが求められています。また、平成20年10月には「集約とネットワーク」の考え方を基本に、圏域全体の活性化を図る定住自立圏構想<sup>1</sup>の先行実施団体に選定され、平成22年3月に定住自立圏共生ビジョン<sup>2</sup>を策定し、その推進に向け取り組んでいます。

隣接する北九州市とは、「関門海峡観光推進協議会」を通じた広域観光振興のほか、様々な分野で連携事業を展開しています。また、産学官<sup>3</sup>から成る「関門地域の未来を考える研究会」からは関門地域の魅力を高める取り組みについて提言を受けており、これらを着実に推進していく必要があります。

県内においては、長門市等と「長州路観光連絡会」を設置し、広域での観光振興に取り組む等、様々な分野での連携を図っているところです。さらに本州四端<sup>4</sup>交流や歴史や文化をきっかけとした国内他地域との交流にも積極的に取り組んでいます。

また、経済成長や地域社会の活力の鈍化等が懸念されている中、新たな定住人口<sup>5</sup>の創出が求められており、Uターン<sup>6</sup>者への支援等による定住促進に向けた取り組みも課題となっています。

今後も引き続き、隣接地域や国内他地域との交流・連携を一層充実させていくことが必要です。

<sup>1</sup> 地方圏において、安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方圏から三大都市圏への人口流出を食い止めるとともに、三大都市圏の住民にもそれぞれのライフステージやライフスタイルに応じた居住の選択肢を提供し、地方圏への人の流れを創出するため、全国的な見地から推進していく構想。下関市の市域をもって定住自立圏の形成を目指す本市は、平成21年2月16日、平成21年第1回定例会において、「下関市定住自立圏構想中心市宣言」を行った。

<sup>2</sup> 定住自立圏構想に基づき推進する具体的な取り組みを記載したもの。本市では平成22年3月11日に策定した。

<sup>3</sup> 産業界（企業）、教育研究機関（学校など）、官公庁（国および地方自治体）の三者。

<sup>4</sup> 本州の四方位の最端の地である岩手県宮古市、山口県下関市、和歌山県串本町、青森県大間町のこと。以上の4市町は、四方位の最端の地であるという地域特性を活かした交流を全国に発信し、観光振興をはじめとする相互の地域活性化を図ることを目的として、本州四端協議会を設置している。

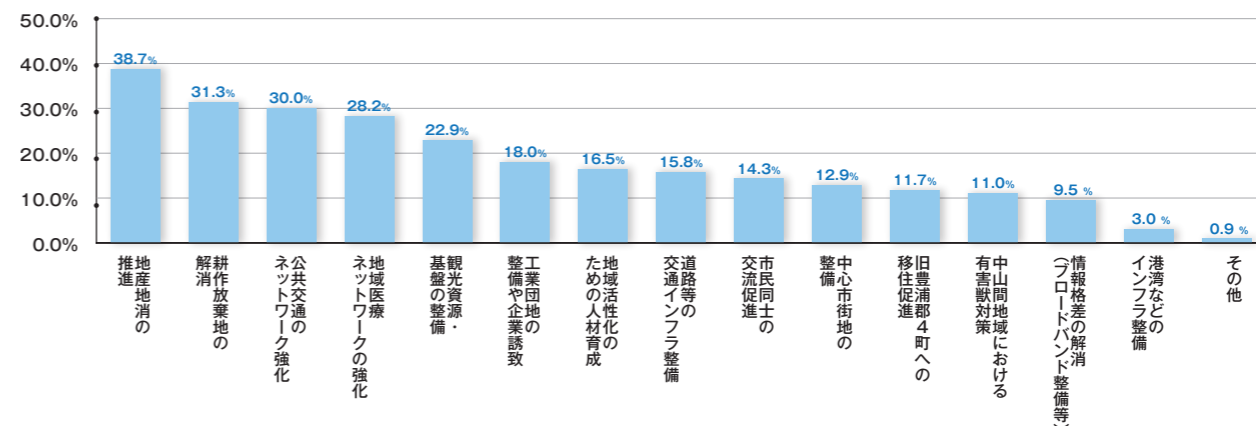
<sup>5</sup> ある地域を住所地とする人口。

<sup>6</sup> Uターンは、都市等で生活している人が、出身地に戻って定住すること。Iターンは、出身地以外の地方へ移住すること。Jターンは、出身地までは戻らず途中あるいは同じ県内の都市などへ移住すること。

## 市民アンケート調査結果

●旧下関市と旧豊浦郡4町の結びつきを一層強め、住民生活の共生を図り、定住を促進させるためには、どのような取り組みが重要か

有効回答者数862人（複数回答）



## 基本方向

- 定住自立圏構想を推進し、定住自立圏共生ビジョンの取り組みを進めます。
- 市内をはじめとして近隣市やより広範囲な国内のさまざまな地域との連携・交流により、各地域の特性を活かした一体的かつ均衡ある発展が図れるよう、交通・情報網の整備や交流イベントの開催等を推進します。

## 施策体系図

連携・交流の促進

市内の連携・交流

隣接地域との連携・交流

UJIターンの促進

その他国内の連携・交流

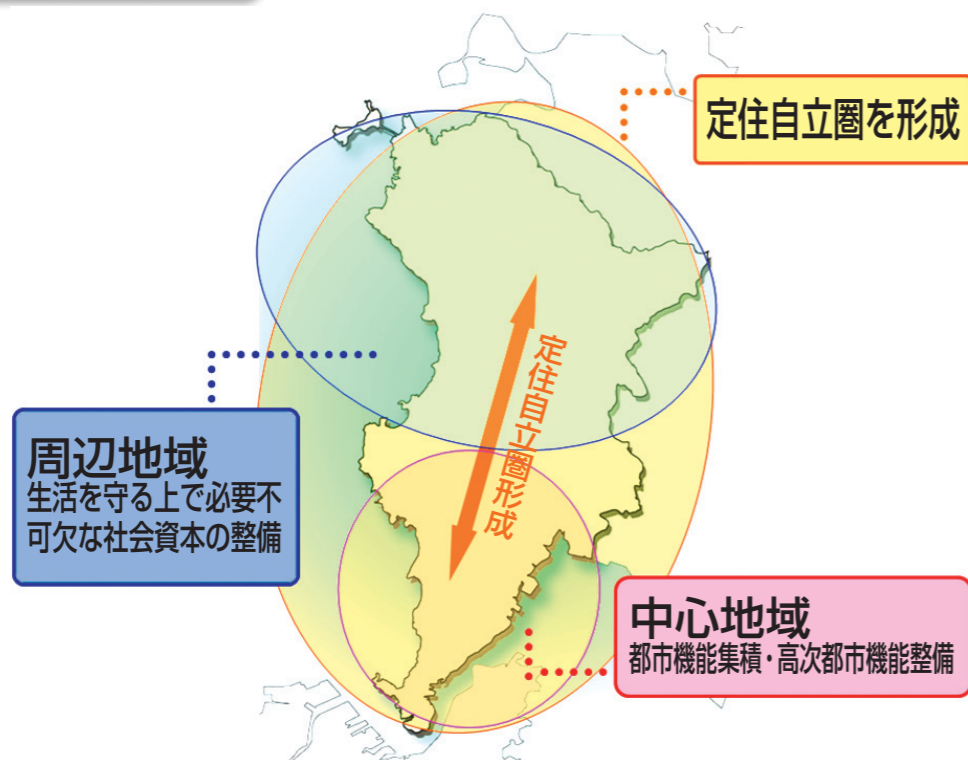
## 各事業の方向

### 1 市内の連携・交流

#### (1) 定住自立圏構想の推進

下関市定住自立圏共生ビジョンに基づき、各取り組みを推進します。

定住自立圏構想のイメージ



(2) 都市、農村交流の推進

農山漁村の持つ優れた特性を活用し、都市部と周辺地域との交流を促進し、市民の一体感の醸成を図るとともに、農林水産業を取り巻く環境への理解を促進します。

(3) 交流型、体験型農林水産業の推進

都市部と農山漁村との交流を図るため、農林水産業体験や調理体験、自然観察等を行います。交流事業について宿泊施設や観光施設と連携しながら進めることで、農林水産業のみならず観光業と一体となった産業振興を目指します。

(4) 市民参加・交流機会の拡大

市民の一体感の醸成、地域定住、観光・レクリエーションの振興を図るため、全市民参加型のイベント・祭典の開催及び各地域イベントの連携を推進します。

また、教育機関の交流機会の拡大や公共的団体の連携強化による交流機会拡大を促進します。

(5) 情報ネットワーク<sup>7</sup>の整備・活用

市内の学校、図書館、公民館、市役所、総合支所等を、高速・超高速で接続する情報ネットワークを整備・活用し、情報交流を図ります。

(6) 交通網の整備充実

市内の各地域間を結ぶ道路の整備及び公共交通機関の充実を図り、市民同士の連携・交流を促進します。

2 隣接地域との連携・交流

(1) 各種事業の推進

関門海峡、山口県西部地域を中心とした関連観光資源のPR、観光客誘致・周遊促進等の展開を図るため、関門海峡観光推進協議会や長州路観光連絡会の活動を支援します。

観光面に加え、市民生活においても、関門地域行政連絡会議や官民の協議組織を通じて、こども文化パスポート事業<sup>8</sup>など「関門の5連携<sup>9</sup>」の拡大、関門地域の共同イベントの開催、大学コンソーシアム関門事業<sup>10</sup>、市民サービスの共同化等、関門地域の活性化に資する事業の検討、情報交換等を推進します。また、長門市等、県内の近隣自治体と連携し、地域振興及び行政サービスの向上に努めます。

(2) 交通網の整備充実

広域道路の整備及び公共交通機関の利用促進や、JR山陰本線を活用した地域の活性化等を図り、隣接地域との連携・交流を促進します。

3 UJIターンの促進

(1) UJIターン促進支援事業

定住先としての本市の魅力を広く発信すると同時に、UJIターン希望者の移住を支援し、定住へと結び付けます。また、空き家情報等を有効活用した過疎地域<sup>11</sup>への居住の促進を図り、地域住民との交流機会の拡大により、移住しやすい環境の整備に努めます。

4 その他国内の連携・交流

(1) イベント開催

海響マラソン大会など、地域の特色ある祭り、イベントを毎年定期的に開催することにより、国内の連携・交流を促進します。

(2) 交流事業

広く国内他都市とのスポーツ・文化交流、児童・生徒の交流を推進します。特に、本州の四方位の最端の地である本州四端都市（岩手県宮古市、和歌山県串本町、青森県大間町）との連携をPRし、地域特性を活かした連携・交流を促進し、地域活性化を図ります。また、歴史・文化・自然資源において縁のある都市との交流等を促進します。

8 夏休み期間中、下関市・北九州市・長門市の子どもたちに、各市の文化施設などの無料パスポートを発行し、郷土の歴史や文化に触れてもらおうとする取り組み。  
 9 下関市と北九州市が、これからの関門地域のよりよい都市環境を創造し、豊かで活力ある暮らしを実現するために、積極的な取り組みを宣言したもので、具体的には、市民交流・経済活動の連携・教育文化活動の連携・交通環境の連携・行政間の連携の5つをすすめる方針である。  
 10 北九州・下関両市の6大学（北九州市立大学・九州共立大学・九州国際大学・西日本工業大学・下関市立大学・梅光学院大学）が連携して行う共同授業等の取り組み。  
 11 急激な人口流出等によって、地域共同体としての機能が十分発揮出来なくなった村や離島などの地域。

7 インターネットに代表される双方向かつ多様な情報伝達のこと。

隣接地域連携・交流

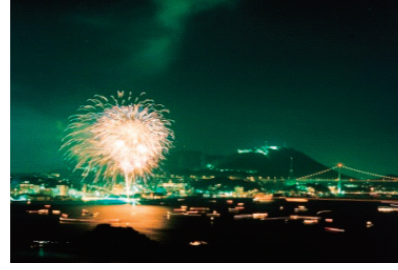


長州路観光連絡会・山陰観光列車「みすゞ潮彩」

特色ある祭り・イベント



しものせき海峽まつり



関門海峡花火大会



しものせき馬関まつり



維新・海峡ウォーク



菊川桜まつり



菊川ぶちうま鍋



豊田のホテル祭り



豊田湖ワカサギ釣り大会



川棚温泉まつり舞龍祭



豊浦コスモスまつり



浜出祭



豊北つのしまタけマラソン

主要な事業

事業	事業概要	事業主体
市内の連携・交流	<p><b>定住自立圏構想の推進</b>  <b>都市、農村交流の推進【再掲】</b>  <b>交流型、体験型農林水産業の推進【再掲】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 里山<sup>12</sup>の再生【再掲】</li> </ul> <p><b>市民参加・交流機会の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全市民参加型イベント・祭典の開催及び各地域イベントの連携推進</li> <li>● 各教育機関の交流機会の拡大</li> <li>● 公共的団体の連携強化による交流機会の拡大</li> </ul> <p><b>情報ネットワークの整備・活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共情報端末<sup>13</sup>の整備・活用【再掲】</li> </ul> <p><b>交通網の整備充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各地域間を結ぶ道路の整備及び公共交通機関の充実【再掲】</li> </ul>	<p>市 市 市 民間・市 市 市 民間・市 市</p>
隣接地域との連携・交流	<p><b>各種事業の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 関門をはじめとした広域観光振興</li> <li>● 共同イベントの開催</li> <li>● 市民サービスの共同化の推進</li> </ul> <p><b>交通網の整備充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 広域道路の整備及び共同した公共交通機関の充実【再掲】</li> </ul>	<p>民間・市 市 市 市</p>
UJIターンの促進	<p><b>UJIターン促進支援事業</b></p>	<p>市</p>
その他国内の連携・交流	<p><b>イベント開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史・文化交流イベント</li> </ul> <p><b>交流事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツ、文化交流の推進</li> <li>● 本州四端交流等の促進</li> </ul>	<p>市 市 市</p>

<sup>12</sup> 人里周辺にあって、農業用の肥料、キノコなどの食料の収穫といった生活環境の場や、身近な遊び場、虫や植物とのふれあいなど自然教育の場として、人々の日常生活と密接なつながりがある森林のこと。  
<sup>13</sup> 行政に関する様々な情報の提供を行うために、公共施設などに設置されている機械。

# 国際交流の促進

## 現状と課題

国際間の人・物・情報等の交流が一層進展する中、わが国のアジアへの玄関口である本市のさらなる発展のために、国際連携を推進していくことが重要です。

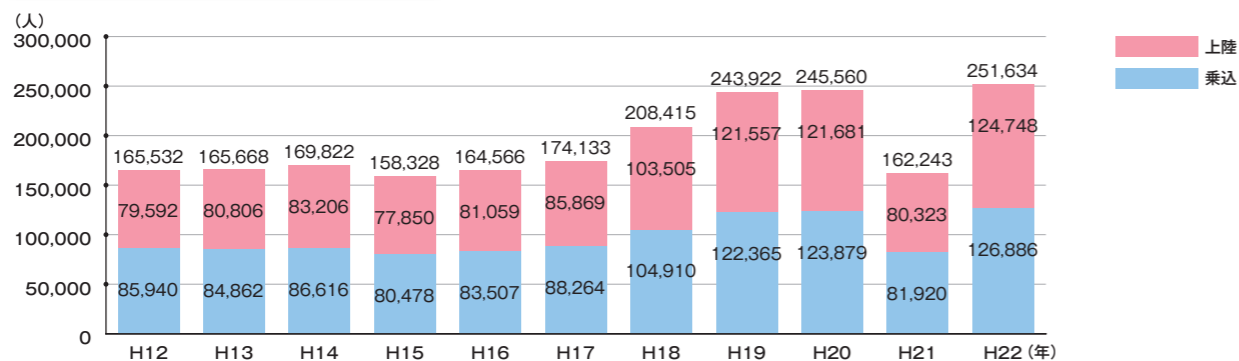
本市は、現在、日本最大の国際フェリー基地として韓国（釜山）、中国（青島、蘇州太倉）を結ぶ3航路週11便の定期フェリー航路を有しています。また、5つの都市と姉妹・友好都市の盟約を結んでおり、親善交流のほか、文化・スポーツ・経済交流を積極的に進めています。また、環黄海に位置する10都市で構成する「東アジア経済交流推進機構」を活用し、今後も引き続き、広い分野で積極的な国際交流を図っていく必要があります。

### 国際定期フェリー就航状況（平成22年12月）

航路	便数 (便/週)	航行時間 (片道)	使用船舶の規模	
			船名	総トン数(t)
韓国(釜山)	7	約8時間	はまゆう	16,187
			星希	16,665
中国(青島)	2	約27時間30分	ゆうとびあ	26,906
中国(蘇州・太倉)	2	約29時間	ゆうとびあIV	14,250
韓国(光陽)[予定]	2	約10時間	光陽ビーチ	15,971

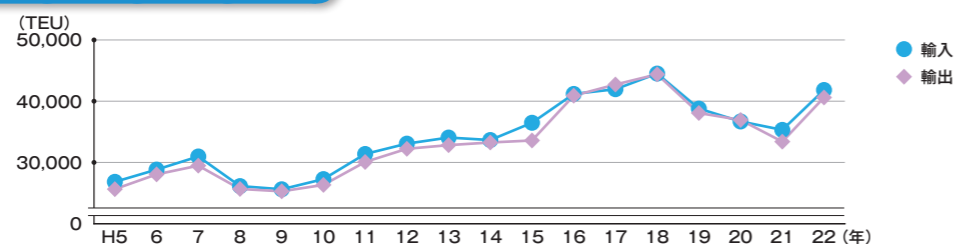
(資料) 下関市港湾局

### 国際定期フェリー旅客数の推移



(資料) 下関市港湾局

### 年次別コンテナ貨物個数 (TEU)

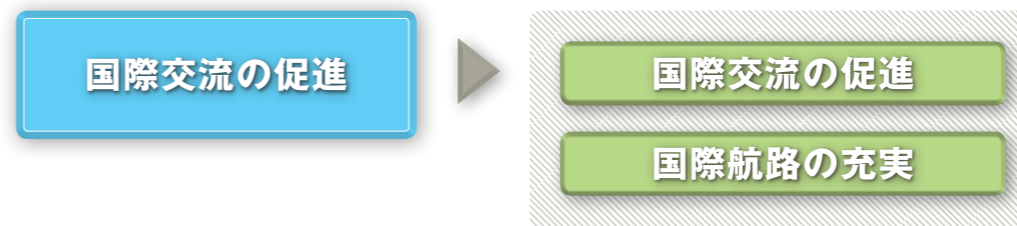


※外国貿易のみ (資料) 下関市港湾局

## 基本方向

- 姉妹・友好都市交流をはじめ、国際交流の一層の充実に努めます。
- 国際レベルの会議、スポーツ・文化イベント等の開催を推進するとともに、民間団体による各種活動の支援及び相互の技術協力、人材派遣等の促進を図ります。

## 施策体系図



## 各事業の方向

### 1 国際交流の促進

#### (1) 姉妹・友好都市等との（経済交流を含めた）国際交流

姉妹友好都市提携に基づき、釜山広域市、山東省青島市との職員相互派遣を継続するとともに、従来からの、人と人との交流を中心とした市民交流等の推進に加え、経済的交流による地域社会の活性化を目指します。

そのため、東アジアにおける経済ネットワークの構築を目的とし、黄海を臨む日本・中国・韓国3か国の有力10都市により構成される、東アジア経済交流推進機構の枠組みを有効に活用し、文化・スポーツ等の人的交流に加え、観光や貿易、物流等の産業交流促進に取り組めます。

#### 東アジア経済交流推進機構の加入都市



## (2) 国際人としての人材育成等

青少年の海外派遣事業推進やボランティア通訳制度及びホームステイ・ホームビジット登録制度<sup>1</sup>の活用を通じて、諸外国との相互理解や市民レベルの国際交流を促進します。

また、国際レベルの会議の開催誘致を推進するとともに、大陸の玄関口として韓国や中国、台湾をはじめ諸外国からの誘客を促進するため、観光宣伝並びに接客等万全な対応ができる受入体制の構築を推進します。

## 2 国際航路の充実

### (1) 航路誘致対策

本市の港湾関連産業及び観光を中心に地域経済の活性化を図るため、国内外におけるポートセールス<sup>2</sup>の実施、ポートセミナー<sup>3</sup>の開催により、船主・荷主・港湾関連事業者等に下関港の利点をPRして、既存航路の貨物量の拡大、新規航路及び客船の誘致に努めます。

### 主要な事業

事業	事業概要	事業主体
国際交流の促進	<p>姉妹・友好都市等との（経済交流を含めた）国際交流 国際人としての人材育成等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 青少年等の海外派遣</li> <li>● ボランティア通訳の育成</li> <li>● ホームステイ、ホームビジット事業の推進</li> <li>● 国際会議等の開催、誘致</li> <li>● 外国人観光客の受入体制の構築</li> </ul>	<p>民間・市</p> <p>市 市 市 民間・市 民間・市</p>
国際航路の充実	<p>航路誘致対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内・海外ポートセミナー、ポートセールス及び客船誘致【再掲】</li> </ul>	<p>民間・市</p>



東アジア経済交流推進機構総会（青島市）



関釜フェリー「はまゆう」

- 1 平成2年から始まった市民レベルでの国際交流推進を目的とした本市の制度。受け入れ家庭に外国人を招待し、1泊以上の宿泊（ホームステイ）や数時間の滞在（ホームビジット）により、友好と相互理解を深めるもの。
- 2 船舶や貨物の誘致を行うこと。国内外の航路や船社に港湾関係者を派遣したり、船社や荷主などを集めて説明会・見学会などを開催したりして、港湾の利点を宣伝し利用促進を図ること。
- 3 港湾の一層の活用を促すため、荷主や船会社、物流業者を一堂に集め、港湾の整備状況や利便性、今後の整備計画などを総合的に紹介するもの。